

こゝに此の書の紹介を終るに當り、自分は重ねて著者の辛勞と、寄贈の好意とに對して深き感謝を捧げると同時に、この貴重なる資料と譯述とが學界の反響を生ずること多かるべきを信じて、著者の研究の上に祝福したい。

(藝文第十四卷第一號、大正十一年十一月末日稿)

（以下は極く淡く、ほぼ不可読の影字が繰り返されている。内容は上記の文章と一致すると思われるが、文字がほとんど判別できない。）